



# 千年村チェックリスト Ver.2.3

千年村チェックリストは、環境・地域経営・交通・集落構造の観点から、自ら住む地域についての自己評価を行うことができます。それぞれの項目や、最終ページの自己評価方法までの一連のフローは、2012 年より正式に活動した千年村プロジェクトの実地調査による知見を反映したものです。今後、このチェックリストを利用した千年村認証活動も行う予定です。

- ※チェックリスト記入マニュアルや、過去の事例を参考に記入して下さい。
- ※記入の際は、個人だけでなく複数人で相談することを推奨します。
- ※提出の際には必ず自治会長など集落を取り仕切る方の確認を取ってください。
- ※固有名詞などはできるだけ具体的に記入してください。
- ※出典は必ず明記して下さい。
- ※用途以外での千年村チェックリストの無断使用・無断転載は禁止します。

2017.03.31 千年村プロジェクト

以下、記入欄

## ○記入者情報

代表者（自治会長など）

氏名： ふりがな

肩書：

連絡先住所：

連絡先： 千年村プロジェクト  
関東活動拠点

代表記入者 氏名： ふりがな 鈴木 登子 所属：早稲田大学 中谷研究室 連絡先：03-5386-2496

記入者 2 氏名： ふりがな 所属：

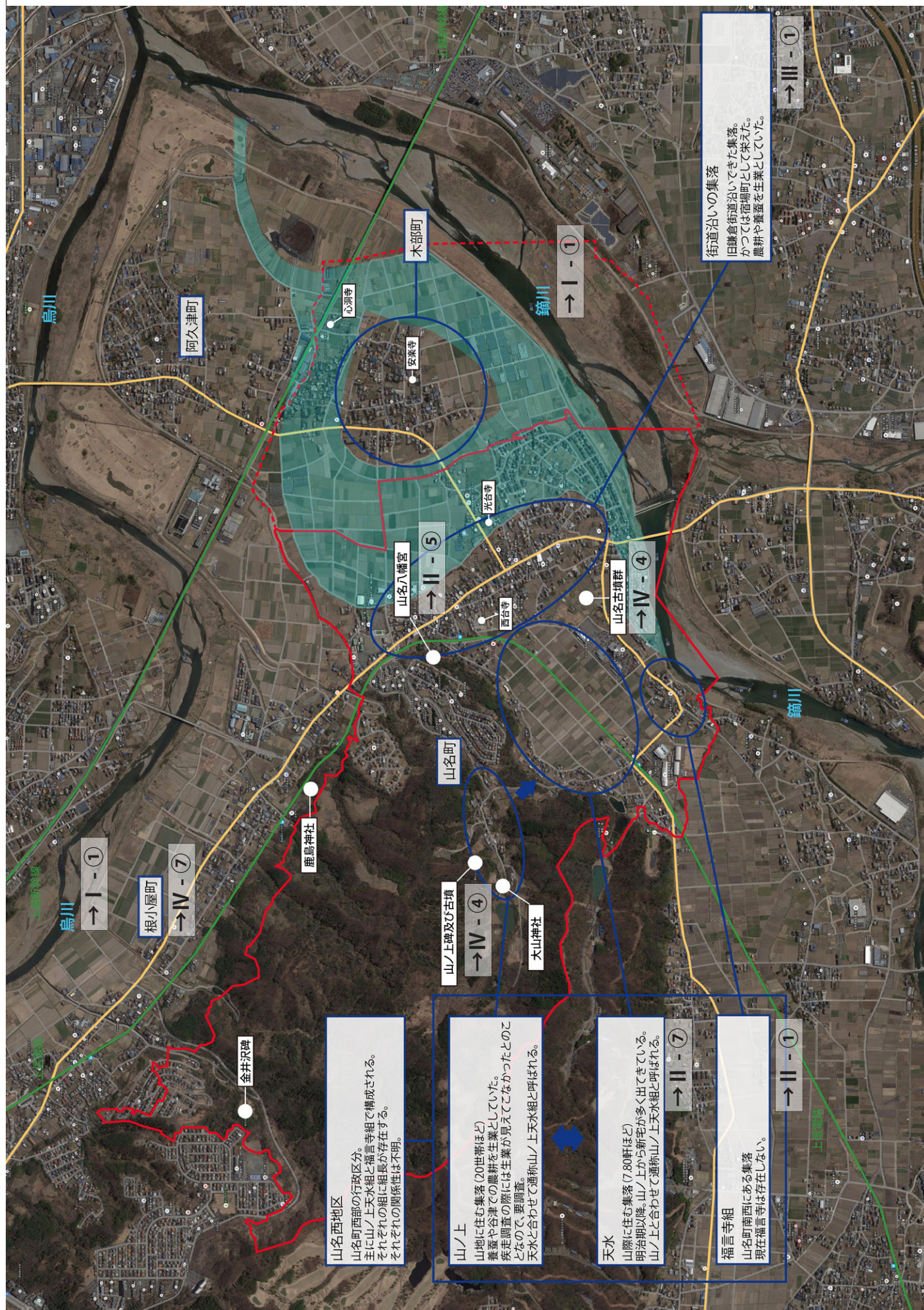
記入者 3 氏名： ふりがな 所属：

記入者 4 氏名： ふりがな 所属：

0 集落の概要				
集落の名称	現在の地名（大字） <small>かな</small> やまな 山名		歴史的地名（参照した古文書の名称とその成立年代） <small>かな</small> たご やまな 多胡郡山字郷（『和名類聚抄』）	
所在地	大字まで書いて下さい。 <small>かな</small> ぐんまけんたかさきしやまなまち 群馬県高崎市山名町			
面積	<small>（ 2010 年度）</small> 418.60 <small>参考「高崎市の統計 平成 24 年」 （高崎市, 2012）</small> km <sup>2</sup>	人口	<small>（ 2010 年度）</small> 3,651 <small>参考「高崎市の統計 平成 24 年」 （高崎市, 2012）</small> 人	世帯数 <small>（ 2010 年度）</small> 1,322 <small>参考「高崎市の統計 平成 24 年」 （高崎市, 2012）</small> 世帯
合併の歴史	年月日、地域の名称の変化など、分かる範囲で書いて下さい。 山名村は旧緑野郡に属し、明治 22 年に同郡の根小屋・木部・阿久津村と合併して緑野郡八幡（やわた）村となる。その後、多野郡と名称を変更し、1956 年に高崎市に合併した。また、これ以降旧碓氷郡の「八幡地区」と区別するために、「南八幡地区」と呼ばれるようになった。（高崎市『寺尾町館の民俗―丘陵部の民俗とその変化―』, p.229 参照）			
地域の記録	○○村史、○○市史など地域の記録はあるか（対象大字より広範囲のものでも可）。その発行年・著者。 高崎市『新編高崎市史 民俗編』（2004）、高崎市『新編高崎市史 通史編 1（原始古代）』（2003）、高崎市『新編高崎市史 通史編 2（中世）』（2000）、高崎市『新編高崎市史 通史編 3（近世）』（2004）、高崎市『新編高崎市史 通史編 4（近代現代）』（2004）、南八幡郷土史会『みなみやはたの歩み：大正・昭和・平成の郷土史集 第 1 ～ 10 集』（2001-2012）、高崎市『寺尾町館の民俗―丘陵部の民俗とその変化―』（1992）など			



山名町概要図(赤枠が<千年村>比定地)





# I 環境 —自然とのつきあい方—

番号	ポイント	
①	集落のかたち・立地 古いところ	<p>例) 古い集落はどんな地形に立地しているか。どこの水系に属しているか。また、街道やみなどとの関係はどうか。旧河道はどこを通過しているか。</p> <p>南部の鐺川と北部の烏川に囲まれた低地と山地に、複数集落が位置している。具体的には山地の「山ノ上（やまのうえ）」、山際の「天水（てんすい）」、旧鎌倉街道沿いの集落と大きく3つが存在する。また、鐺川と烏川に囲まれた地域は山名町の他に阿久津（あくつ）町、根小屋（ねごや）町、木部（きべ）町もあり、すべてまとめて南八幡地区となる。</p>
②	生産地（農地や工場など）の立地	<p>例) 農地、工場、商業地、漁業、林業などはどこに立地しているか。圃場整備の範囲はどこか。工場、商業地がいつできたか。耕作放棄地や空地がどこにあるか。旧河道はどう利用されているか。</p> <p>山際に耕地整備された水田が立地している。山地、街道沿いには現在際立った生産地は見られない。南八幡地区全体において、小さなスペースを活用したぶどう栽培が見られる。</p>
③	主要産業・特産物	<p>例) 現在の主要産業は何か。働き先はどこか(集落内外)。かつての主要産業は何か。特産物はあるか。</p> <p>現在の主要産業は稲作、農耕。かつては山地で養蚕および農耕が営まれていた。勤め先は高崎市など。南八幡地区では「山名だいこん、木部ゴボウ、阿久津にんじん、根小屋いも」と呼ばれる特産物があり、地域ごとの環境に合わせた生産を行っている。（2015年ヒアリングより）</p>
④	水源と水の引き方	<p>例) 農業用水の水源は何か。生活用水の水源は何か。井戸が残っているか。地域内の水路はどこを通過しているか。</p> <p>山ノ上の西部に貯水池があり、山の中の隧道を通過して山下の水田に供給される。農業が盛んになってからは鐺川からも水を汲み上げるようになった。現在山下の水田において、山際は山ノ上から、川沿いはポンプアップにより鐺川から取水している。（2015年ヒアリングより）</p>
⑤	近年の土地開発について	<p>例) 昭和40～60年代、平成、最近5年程度に行われた開発はそれぞれどこか。開発前の土地利用は何か。開発によって商業、交通などどんな変化が起きたか。</p> <p>山名町では、山ノ上と山下の住民で土地を分割しながら所有し続けている。また、山名町東部で昭和40(1970)年代ごろ、市営団地の開発が行われた。（2015年ヒアリングより）</p>
⑥	過去の災害とその対策	<p>例) 災害危険区域はどこか（ハザードマップなど）。過去、どのような災害があって、どこに逃げたか、その協力体制。どのような災害を心配しているか。集落内の安全な場所と危険な場所。</p> <p>ハザードマップでは、山ノ上一帯ががけ崩れ特別警戒区域となっている。しかし、これまで山ノ上において、がけ崩れが起きても居住地への被害はなかったようである（2015年ヒアリングより）。</p>
⑦	その他	自由記述・図示など。

## Ⅱ 地域経営 ー集落を支える仕組みー

番号	ポイント	
①	各種組織	<p>例) 行政区、町内、班といった地域的な組織の構成および目的別の組織（消防団、氏子、講など）にはどのようなものがあるか。可能な限り連絡先を記入して下さい。</p> <p>山名、木部、阿久津、根小屋と大字単位で組織が形成されているが、これらがまとまって「南八幡」としての意識が強い。また、山名西地区には福言寺組と山ノ上天水組がある。山ノ上天水組は「山ノ上」と「天水」の2つに区分される（高崎市『寺尾町館の民俗―丘陵部の民俗とその変化―』p.229 参照）。</p>
②	地域内での情報伝達、連絡の方法	<p>例) 地域内での情報の共有や連絡はどのように行われているか。（回覧板・ウェブサイト（URL）・公民館便りなど）</p> <p>公民館を通じた情報共有、および山名八幡宮や地域掲示板への掲示など。回覧板については不明。</p>
③	山林、里山また湖などの管理主体	<p>例) 地域に共有性のある土地利用（入会地など）が行われているところはあるか。その利用主体の組織はどのようにになっているか。</p> <p>山ノ上では人口が増えるにつれて親族の間で山下の土地一帯を分割した。新しい世代が山の下におりていった。（2015年ヒアリングより）</p>
④	水の管理主体	<p>例) 水門、水路などの水利用施設の維持管理を行う組合、組織はあるか。農業用水以外の水利用に関わる組織はあるか。</p> <p>水門の管理を住人二人が担当し、毎日朝6時に開けて、夕方5時に閉める。水量が多いときは、山ノ上を流れる柳沢川に流す。（2015年ヒアリングより）</p>
⑤	地域祭礼・年中行事	<p>例) 祭礼についてその概要や成立時期、祭礼と地域住民の関わりはどうなっているか。また地区対抗運動会など地域が参加する年中行事はあるか。</p> <p>山名八幡宮で春と秋に例大祭が催される（山名八幡宮（<a href="http://yamana8.net/">http://yamana8.net/</a>, 2017.5.8 閲覧）より）。南八幡地区全体が関わる。南八幡地区対抗運動会など、南八幡全体での行事もある。</p>
⑥	地域の歴史・物語の伝承	<p>例) 地域の歴史や物語などを伝える活動、組織（郷土史会、歴史遺構の広報活動など）はあるか。可能な限り連絡先を記入して下さい。出版物には出版年・著者などを記入してください。</p> <p>山名地区では公民館での活動が活発であり、2017年現在南八幡婦人会、南八幡郷土史会、区長会などがある。</p>
⑦	口伝・通称の地名	<p>例) 住所表示や地図には存在しないが地域で共有されている場所（山、集落、田、川など）の呼称、通称地名はあるか。（フリガナをつける）</p> <p>一部、南八幡地区の呼称について「南八幡村（みなみやはたむら）」「八幡村（やわたむら）」など複数みられる。山下の集落は、住民の間では「天水（てんすい）」と呼ばれているが、地名としては存在しない。</p>
⑧	その他	<p>自由記述・図示など。</p> <p>近年新しく住む人が増えてきている。新規住民と古くからの住民のあいだで、子どもや趣味を通じた交流が行われている。新規住民は山名町の自然に魅力を感じ移り住んでいる場合も多く見られた。南八幡におけるそれぞれの地区の特産物（山名だいこん、木部ゴボウ、阿久津にんじん、根小屋いも）を用いた「だいに」と呼ばれる料理があり、南八幡の結束の強さをうかがわせる。</p>

## Ⅲ 交通 一人とモノの往来

番号	ポイント	
①	昔からの道	<p>例) 古くからある道で名称、種別、用途、起源などがわかるものはあるか。また、どこにつながっていたか、主に何を運んでいたか。</p> <p>山名町東部に旧鎌倉街道がある。街道沿いはかつて宿場町として栄え、農耕や養蚕を生業としていた。また、かつては山ノ上の桑や木材が街道沿いに運ばれ、養蚕や燃料として使われていた。(参考：高崎市『新編高崎市史 民俗編』(2004)) (2015 年ヒアリングより)</p>
②	現在の主要な道路	<p>例) 現在の生活の中で主に使われている道はどれか。その名称、完成時期などとそれぞれの利用方法(〇〇へ行く道、集落内移動、さんぽなど)</p> <p>県道 30 号線が現在の街道として使われている。山名八幡宮から天水田んぼの周りを散歩する住民もいる。</p>
③	建設予定の道路の有無	<p>例) 地域に影響がありそうな道路の新規建設計画、拡幅などの改良計画はあるか。その名称、完成予定時期、目的、また集落の存続に与える影響など。</p> <p>県道 30 号線から分岐して、木部町を横断する新しいバイパスが 2032 年に完成予定。より多くの交通量に対応する一方、木部町の耕作地が分割されることも予想される。</p>
④	水運の有無と利用法	<p>例) かつて使われていた水上交通(川、堀、河岸、港など)はあるか。それらは、どのように使われていたか。今はどうか。</p> <p>特になし。</p>
⑤	鉄道の有無、その経緯と現状	<p>例) 地域に関わりのある鉄道はあるか。廃線になったものも含めて、その路線、駅、主な用途、時代的変化などはどうか。</p> <p>八幡山を周るように上信電鉄が通る(2 ページ地図参照)。明治 30 年に上野鉄道が開通し、山名駅が開設される。大正 10 年に上信電鉄に改称。山名町には山名駅、西山名駅が存在する。また、阿久津町と木部町の間に上越新幹線が通る。(参考：角川日本地名大辞典編纂委員『角川地名大辞典 10 群馬県』, 1988)</p>
⑥	その他	自由記述・図示など。

## Ⅳ 集落構造 ー集落の骨格ー

番号	ポイント	
①	集落の核	<p>例) 古いと言われている場所、集落の起源とされている場所はどこか。皆が中心だと思える地区、寺社、本家などは、どれでどこにあるか。</p> <p>もっとも古い場所は山ノ上だとされる。稲作の時代になると山下の田んぼで麦や米をつくるようになったと考えられる。人口が増えるにつれて、新しい世代が山の下に移り住んでいった。(2015年ヒアリングより)</p> <p>八幡山東部の山際には山名八幡宮がある。</p>
②	墓地の場所と現状	<p>例) かつての埋葬地はどこか。墓地はどこか。その成立時期、管理方法(一族的管理、宗教施設による管理など)に特徴があるか。</p> <p>街道付近に寺院が2軒ある。天水の耕作地の一部が墓地となっている。また、山ノ上の北奥は、新しい墓地が造成されているが、古くからの地元住民は利用していない。山ノ上の住民同士の共有墓が八幡山中に存在しているようである。</p>
③	集落の維持について	<p>例) 道、石積み、建物などの建設に携わる専門職はいるか。在来工務店はあるか。地場的な素材利用はしているか。</p> <p>大工を営む家がある。山ノ上に至る途中の三叉路にある地藏堂をつくった。現在は市が所有しているという。(ヒアリングより)</p>
④	文化・自然遺産の有無	<p>例) 遺跡や旧跡、古民家、古さを示す自然物(御神木など)、古くからある土木構造物はあるか。その年代はいつか。</p> <p>山ノ上には上野三碑のひとつである山上碑が所在する。完存するものに限れば日本最古の石碑として知られ、681年に記されたものとされる。山名地区東南部には6世紀中頃～7世紀前半につくられた山名古墳群が存在する。また、山ノ上には古い養蚕民家がいくつか見られた。</p>
⑤	集落の型	<p>例) 集落のかたち。地形や水路との関係はどんなふうか。集落内の民家、敷地に共通点はあるか。〇〇造り等の名称はあるか。(可能であれば図示)</p> <p>山ノ上では石積みの壇の上に建てられている民家が多い。20世帯ほど。天水は八幡山の際に沿って7～80世帯ほどの民家が建てられている。徐々に山ノ上から山際に移り住んでいった過程がある。街道沿いの集落では、住居が旧街道に妻面を向けるように立ち並ぶ。</p>
⑥	暮らしの工夫 村での発明	<p>例) 集落における面白いモノの利用(独特な軒下の形、水場の使い方など)、そのための小さな発明。修繕のしかたなど。</p> <p>山ノ上で置屋根の蔵が散見される。また、山ノ上は馬屋や蔵を備えている民家が多い。</p>
⑦	その他	<p>自由記述・図示など。</p> <p>根小屋町は、「根小屋」という地名の由縁が根小屋城の番兵が山裾にくだったことにある(2015年ヒアリングより)。この由来を考えても、山の上から下へ移り住んでいることがわかる。</p>



# 自己評価

これまでのチェックリストを振り返り、環境・集落構造・地域経営・交通の各要素について以下の4段階評価を行ってください。  
そして、その理由を記述して下さい。また、自己評価をもとに、集落についての総合評価を行ってください。

○自己評価：A・・・優れている B・・・やや優れている W・・・弱い

要素	自己評価	理由
環境	A	鎚川と烏川、山ノ上の貯水池と水源が豊富であり、稲作や農耕など生産に適した環境である。また、山ノ上では桑や養蚕、燃料の収穫を行ってきたほか、現在は開発や土地貸出を行っている。山の使い方の選択肢が多く、時代に即した適応を続けてきたことが伺える。また、南八幡全体でみると、地区ごとの特産物を持っており、環境に合わせた生産を行っていることがわかる。
地域経営	B	山名、阿久津、木部、根小屋の4地区が「南八幡」としてのまとまりを強く意識している。さらに、公民館活動では婦人会や郷土史会など、現在も活発に4地区が繋がっている。一方で高齢化が進むほか、新規住民と古くからの住民との交流には、まだ発展の可能性が見込まれるものの、子どもを通じた地域内交流が行われている。
交通	B	旧鎌倉街道の存在、新規バイパスの開発、上信電鉄など交通基盤はしっかりある。持続において、交通の影響がとくに強いわけではないとみられる。
集落構造	A	暮らしに合わせて、集落の核を移動しながら持続してきている。狩猟時代に獲物を求めて山に入り、稲作の時代になると山下の田んぼで稲や麦を生産した。人口増加、世代交代に伴い生活圏は山下に徐々に移っている。根小屋町は、「根小屋」という地名の由縁が根小屋城の番兵が山裾にくだったことにある。このことから、山中に起点をもって山を下りながら発展していく構図が南八幡全体にみられる。

## 総合評価

自己評価をもとに、この集落がなぜ千年村であるか、どのような点で千年村として優れているのかなど、自由に記入して下さい。  
また、それらが千年村認証基準のどの項目を満たしているか記入して下さい。  
山中に起点を持ちながら、山を下るようにして発展していくという構図が持続している。これが山名町特有の、千年村としてもっとも優れている点であると考えられる。この構図を支える重要な要素に、鎚川と烏川という2つの川の存在がある。農耕・稲作に適した低地が南八幡全体で成立したため適地適作がどの地区でも行えたことや、地域経営において山名、阿久津、木部、根小屋という4つの町の結束力を高めている。これより、認証基準のⅠ環境Ⅳ集落構造をとくに満たしているといえる。現在においても、山ノ上にある碑がユネスコ記憶遺産の国内候補になるなど、対外的な活動も活発である。ここ数十年で各地区で新規住民が増えており、地域全体の発展が見込まれる一方、新しい住民とどのように地域を支えていくかという局面にある。この課題に対して、趣味の集いや子どもを通じてのつながりが新しく出来ることに期待している。

## キャッチフレーズ

集落のキャッチフレーズづくりに挑戦してみましょう。これまでの記述を踏まえて、この集落の持続要因を一言で表してみてください。

2つの川が生んだ人のなりわい

## 集落の写真など



▲山名古墳群



▲山際の集落（天水）



▲山名八幡宮



▲山ノ上の貯水池

※写真はすべて千年村プロジェクトが撮影